

三句 二句 初句

四句

茶碗伏せたる山も笑ひぬ 流れ来て讃岐の里や花の散る 深呼吸してふらここを漕ぐ 蕗の薹解き放たれし不精ひげ 綿入れはおり熊となりぬる 携帯の電源切ってぼっち鍋

俳句を愉しむにくの会(「玉翠俳句王~にく の会・誌上句会 | 欄参照) のメンバーのうち. 連歌の魅力に目覚めた者たちが平成25年秋 に旗揚げした「漂流連歌会」。昨年の第32回 東京玉翠会の同好会通信欄で初掲載の栄に浴 しました。早いものであれからもう1年、そ の間に2回歌仙連歌を巻きました。

第2回興行までは、半日を費やして半歌仙 (18句)を巻くのがやっとだったのが、第3

(初折の表)

発句

第3回興行

花火待つ

の巻

於 恵比寿ロビンでァ; 平成6年7月6日(土)

恵比寿ロビンズクラブ

に18句出来上がり、その勢いのままに名残 の折に突入して、半日で歌仙(36句)を巻 くという快挙(怪挙?)を達成しました。連 衆の腕前がだいぶ上がったということでしょ うか?

回興行では、すいすいと句が出てあっという間

今年の目標は、秋に歌仙を巻くことと、じっ くり半日かけて「一歩もあとへ帰る心なし」(芭 蕉)で変幻自在の半歌仙を巻くことです。

**岡崎洋**(S37卒) okazaki@tokeilaw.com **豊澤佳弘** (S50 卒) toyosawa@msf.biglobe.ne.jp

(初折の表)

(名残の表)



第4回興行

鬼は外の巻

於 虎ノ門ヒルズ・グリー平成27年2月7日(土)

ンラタン

光	紗	壊	芝	洋	らいむ	紗	光	芝	壊	らい	洋		光	紗	壊	芝	洋	らいむ
義	頼	殼	女	q	む	頼	義	女	殼	む	q		義	頼	殼	女	q	む
- 挙句	五句	四句	三句	二句	初句	(名残の裏)	十二句	十一句	十句	九句	八句	七句	六句	五句	四句	三句	二句	初句
紫雲の山に霞たなびく	ふくらみて花になりゆく殿の庭	遠足の朝黄色いかばん	春一番少し見ぬ間に河馬太り	メッシー君を昇格させる	残り香や過ぎしものみな美しき	*	ミサンガ切つてため息を吐く	客去りて青梅照らす夜半の月	広きつばには揚羽蝶来る	ダービーやドレスコードの厳しくて	たてがみ揺らし馬の駆けゆく	襟裳岬水平線に秋の虹	ポテトサラダにリンゴを入れて	薬掘る白き肌を濡らしつつ	直会明けて烏滸となりぬる	明石鯛しゃぶしゃぶにして品定め	光源氏に吾をなずらふ	日永し寝ころんで読むコンゲーム

芝 光 Ġ

芝 光

裁女義む賴敖女義む賴敖女

						- 1	WY CALL												
	X Mile						1	10											
	十二句	十一句	十句	九句	八句	七句	六句	五句	四句	三句	二句	初句	(初折の裏)	六句	五句	四句	第三	脇句	
	春雷響む革命前夜	日の本にジャンヌダルクや桜咲く	蝶のたはむる八重の垣かな	炎天のなほ濃き緑摩天楼	虹を食みつつ毬藻は育つ	バイカルの湖の底まで月涼し	三味の音を背に北へと向かふ	手枕や鳥殺して寝過ごさむ	人妻ゆゑの古酒に酔ひ	君想ふあかき秋桜揺れにけり	夜長に聞こゆるウィンナーワルツ	かすれゐしラヂオの音や終戦日	*)	狼滅び邑の消えゆく	独りして月冴ゆる夜を逍遥す	波打ち際に白きくるぶし	テスト明けセーラー服のさざめきて	灼けし煉瓦に一筋の風	
	らいむ	光	峻	紗	光	6	欣	壊	洋	芝	峻	紗		光	6	於	壊	洋	
	む	義	坊	頼	義	む	女	殻	q	女	坊	頼		義	む	女	殻	q	

十二句

千年先を友と語らむ

かぐや姫月澄む空を見上げをり

花火待つ恵比寿の丘の館かな 芝 女 (名残の表) 初句 降る雨に奏でる詩人のノクタ

訪ふ人のミンクの毛皮雪払ふ 窓を開きて冬薔薇見ゆ

三つ編みのうなじに指はためらひて

朱に染む肌を恋といふらむ

峻 光洋 壊 紗光芝 壊 洋 紗 光 芝 b 洋壊飲 b 坊む 々頼義女坊む々 殼 義々殼頼義女

笑栗や姉と弟かくれんぼ

賀茂の河原に鬼遊びみて 蒼天のにはかに曇り祇園の会 少将笛を取り落としけり

釣瓶落しに寺の遠鐘

[テーマ] 讃讃高高 NIPPON-1 45 44 第33回東京玉翠会総会

芝 光

女 義

む